

「スポーツこころのプロジェクト笑顔の教室」がスタート

スポーツの力で、被災地の子どもたちに元気を！

東日本大震災から半年を過ぎた9月21～22日、スポーツ振興くじ(toto・BIG)の助成事業として、「スポーツこころのプロジェクト笑顔の教室」が始まった。被災地の子どもたちの心のケア活動等を支援するもので、スポーツ界が一丸となり、子どもたちの心からの笑顔のために取り組んでいく。



アスリートたちの人生観を伝え、共に過ごす
楽しい時間を、子どもたちの勇気や活力に

岩手県大船渡市で実施
「夢先生」と名付けられた
アスリートと子どもたちが交流

「スポーツの持つ力やアスリートたちの経験から得られた教訓を、被災地の子どもたちに人生へのメッセージとして伝え、将来に向けた希望の光を灯してもらいたい」と思い、東日本大震災直後に実施が決定した「スポーツこころのプロジェクト笑顔の教室」。このプロジェクトでは、毎回、夢先生と名付けられたアスリートたちが小学校を訪れる。



ラモス瑠偉さんと蛸ノ浦小学校の6年生たち

その第1回が、9月21日、岩手県大船渡市立蛸ノ浦小学校の6年生19人を対象に行われた。夢先生は、元サッカー日本代表のラモス瑠偉さん。体育館で行われた前半の「遊びの時間」では、フラフープなどを使った「鬼ごっこ」のようなゲームを楽しんだ。子どもたちは何度も鬼役のスタンプに捕まり、ラモスさんと作戦会議。会場全体が笑いと熱気に包まれた。「スポーツこ

ろのプロジェクト笑顔の教室」では、全員で一つの目的を達成すること、協力すること、「全力でやること」「助け合うこと」の大切さを、自然な形で伝えていくことを目指している。

今年300回、
来年度以降は年間1000回
を5年間にわたって実施

翌22日に行われた第2回には、夢先生としてオリンピック女子マラソンメダリストの有森裕子さんが登場。現在、蛸ノ浦小学校を借りて授業をしている市立赤崎小学校の6年生30人と交流した。体育館では、子どもたちと有森さんが横一列に手をつなぎ、「だるまさんが転んだ」のようなゲームを実施。大歓声の中、何度も作戦会議で知恵を出し、協力しながら楽しんだ。

後半は会場を教室に移し、メダリストまでの道のりは困難だったこと、「陸上部に入部させてくれるまで、先生を1ヶ月間追い回した」など、有森さんはさまざまなエピソードを話した。笑顔で答えてくれた。本プロジェクト運営に携わる「スポーツこころのプロジェクト」手嶋秀人運営本部長は、「スポーツ振興くじ(toto・BIG)の助成が決まったことで、実施できる環境が整い、本当に嬉しかった。スポーツにより得られた人生観やスポーツに内在する力を伝えることで、少しでも勇気や活力につながればと願っている」。



有森裕子さんと赤崎小学校の6年生たち

「スポーツこころのプロジェクト笑顔の教室」は、今年以降は、青森から千葉までの被災地6県の小学校で、年間千回を5年間にわたって行っていく予定だ。

スポーツ振興くじ[toto・BIG]とは？



「スポーツ振興くじ」の助成金は様々なスポーツ振興に役立てられています。



助成は、平成14年度から開始。グラウンドの芝生化などスポーツを楽しむための環境づくり、地域で行うスポーツ教室や大会の開催、アスリートの育成等に充てられている。

これまでに、約403億円の助成を行い、日本のスポーツ振興に役立てられてきました。

「スポーツこころのプロジェクト笑顔の教室」とは？



東日本大震災により大きな被害を受けた地域の復興を支援するため、公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、財団法人日本サッカー協会、一般社団法人日本トップリーグ連携機構の4つの団体が実施。アスリートたちを被災地へ派遣する。子どもたちを中心とした多くの人が、元気と活力を取り戻すことができるような交流活動を通して、復旧、復興に寄与していく。



頑張っている
子どもたちのために
全力で取り組みます

元サッカー日本代表

ラモス瑠偉さん

子どもたちの笑顔からは、逆に私が学ばせてもらうことが多かったように思います。頑張っている子どもたちに心から感謝をしたい。復興までの道のりの中、夢や希望だけは捨ててほしくない。苦しみは本人にしかわからないけれど、壁を乗り越えれば、必ずいいことが待っていると伝えたい。私自身もそのような経験を重ねてきたからです。今後も、少しでも子どもたちの不安な気持ちを取り除くために、全力で取り組みます。



楽しいという
感情を持てる
交流を目指したい

オリンピック女子マラソンメダリスト

有森裕子さん

今回、子どもたちは、明るい笑顔に向けてくれました。しかしこの半年、子どもたちは、自分、そして誰かのことを思い、一生懸命な毎日を送ってきたと思います。その中で抑えてしまった感情があるとすれば、少しでも早く出せるお手伝いをしたい。今は、「一時でも喜びを感じられる」時間を、「スポーツこころのプロジェクト笑顔の教室」で増やしていければと思っています。